

在ドイツ日系企業とドイツ企業への影響(抜粋)

日系企業	機械関連	英国との直接取引は僅少なため、ほとんど影響なし。しかし、英国がEU離脱となった場合、世界、とりわけ欧州の金融市場(為替や金利)、株式市場への影響は避けられず、顧客の市場環境が激変する可能性があることから、今後の受注への影響は小さくない。
	機械関連	英国そのものに関しては特に影響なし。英国の製造業の市場において、航空機産業に代表される固有の技術分野での優位さは揺るがない。一方、今後の戦略としては欧州の製造拠点から米州への販売を増やすことによって、為替のバランスを取りたい。
	機械関連	一番の不安材料は為替変動。円高・ユーロ安が進めば機械のような高額商品の価格はさらに跳ね上がり、欧州市場での競争力は削がれる。また、欧州市場の不安定を招き、工作機械のような高額設備投資を控える傾向が出ることを懸念。
	自動車関連	自動車販売次第。欧州内および中国での販売に影響が出た場合、影響があるが、現在あまり心配していない。
	自動車関連	直接的な影響として、関税による英国向け商品の競争力減少が考えられるが、会社全体への影響は大きくない。間接的には欧州自動車市場の成長鈍化などを懸念。
	医療関連	英国市場への影響、既存開発委託契約の見直しの必要性の有無、課税面での影響、出張者の利便性、安全貿易規定の厳格化、情報移動の制約などの影響を懸念。
	医療関連	英国経済の衰退と、それにより、官公庁の予算削減につながり、販売へ影響することを懸念している。また、関税・非関税障壁による販売への影響も懸念している。
	建設関連	英国市場が占める割合は会社全体でみると小さく、全体業績への影響は限定的。一方、経済協定の結果次第で、英国から大陸側各国に生産施設などの移転が続出する場合、大きなビジネスチャンスになる可能性もある。
	化学関連	ドイツ法人としては、英国向けのビジネスは他EU諸国向けに比べ少ないが、ポンドおよびユーロの下落による円高の影響や、欧州域内全般の経済環境の悪化に対して強い懸念を持っている。
	化学関連	英国向け売り上げは他の欧州主要国向けに比べはるかに少ない。従って、直接的な影響は極めて低いと考えているが、為替・証券市場などの動揺や景気悪化による影響に対する懸念は当然ながら大きい。中長期的に一層の欧州不安定要素、負の成長要因となることが予想されており、比較的長期的視野で行動する製造業としても非常に懸念している。
	電子・電気関連	ドイツ・英国の取引は現状存在せず、英国市場は英国の販社が担当している。従って、ドイツ法人として英国ビジネスへの影響は限定的となる見込み。リスク要因は、英国経済の減速による英国国内市場の縮小。少なくともEUへの脱退通告後2年間はEUに残るので、その間に必要な対応をしていく。
電子・電気関連	英国との直接ビジネスは少ないため影響は極めて限定的。英国の医療機器メーカーへの納入があるが、英国離脱により契約が影響を受けるとは考えていない。また、英国離脱による関税の導入の可能性は少ないと考えおり、導入されたとしても、状況に応じた対応をしていく。	
ドイツ企業	機械関連	英国市場へはドイツから輸出している。英国の離脱によって関税や非関税障壁が生じるのは、輸出モデルでビジネスを行っている当社にとってはマイナス。2年間のEU加盟期間にしかるべき対策をする。
	自動車関連	英国に拠点を構えるが、小規模なためフレキシブルな対応が可能だ。また世界に事業を展開しているため、英国のリスクは緩和できると考えている。今後の英国・EU関係を注視し、迅速に対応していく準備ができています。
	自動車関連	顧客との信頼関係は厚いためショックは吸収できる見込み。会社の業績には影響しない。

(出所)ジェトロによるヒアリングを基に作成